

# 認知症の中核症状と周辺症状

## 周辺症状

行動障害 精神症状  
徘徊 幻覚  
失禁 妄想  
自傷・他害 作話

感情障害 意欲の障害  
うつ 意欲低下  
不安 意欲亢進  
焦燥

## 中核症状

記憶障害  
見当識障害  
判断の障害  
実行機能の障害

### 特徴

- ・一部の患者に、経過中にみられることがある
- ・出現する症状やその重症度は様々

### 対応

- ・薬物投与等の精神科治療技術や、手厚いマンパワーを要する
- ・適切な治療により、多くは1～3ヶ月で改善可能

- ・すべての患者で病期を通じてみられる
- ・徐々に進行し、改善は見込めない

- ・ドネペジル(アリセプト)投与により、進行の遅延が図られる

# BPSD: 認知症の行動・心理症状

(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)

認知症の症状には、物忘れや判断力の低下等、脳機能の低下を直接示す症状である「中核症状」と、「中核症状」に伴って現れる精神・行動面の症状である「周辺症状」に分けられる。「BPSD」は「周辺症状」とほぼ重なる概念である。

## 【行動症状】

- 暴力
- 暴言
- 徘徊
- 拒絶
- 不潔行為                    等

## 【心理症状】

- 抑うつ
- 不安
- 幻覚
- 妄想
- 睡眠障害                    等

### ※せん妄

- 急激かつ一過性に意識水準が変化した状態で、1日の中でも状態は変動する
- 意識障害、認知機能障害に加え、BPSDに類似の症状が出現する
- 認知症に合併することも多く、認知症(BPSD)との鑑別が困難となることも多い